

七小校長室便り

開校50周年

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.10 令和4年(2022年)12月22日



明日の終業式で、2学期が終わります。

令和4年度の2学期が明日の終業式で終了となります。

保護者の皆様、地域の皆様には、この2学期の本校の取組に対して、様々にご支援をいただき、また、ご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。開校50周年の佳節の年を子供たちと共に、多くの方々の励ましと見守りにより、お祝いの気持ちを込めた手作り感のある取組にすることができており、心からの御礼と感謝を申し上げます。

令和5年の年が明けると同時に、本校の周年式典及び周年記念の各種行事において、有終の美に向かって、いよいよ佳境の日々となってまいります。新型コロナウイルス感染症における感染状況は、まだまだ見通しが難しく、予断は許されませんが、コロナ禍における様々な状況や対応には、少なからず変化も見えてきているところです。

本校の子供たちが、50歳を迎えた七小をお祝いし、その学校で生活していることへの楽しさや喜び、安全と安心の居場所としての実感をもって、開校50周年の学校生活の日々を送り、今年度最後の3学期修了式を、6年生においては、卒業式を迎えてもらいたいと思います。チーム七小の全教職員の力を結集して、開校50周年を最後まで走り切りたいと思います。どうぞ、よろしく願います。

七小PTA 五十周年記念事業実行委員会の取組について

本年度の開校50周年記念事業において、PTAの体制の中に七小PTA 50周年記念事業実行委員会が設置されています。PTA総会の折に保護者の皆様にご承認をいただき、周年の年の今年度に合わせて活動いただいております。

具体的には、記念誌におけるPTA担当ページの作成や記念式典における記念品の作成及び購入、その他にも様々にご検討いただき、ご対応いただいております。PTAの皆様のご代表として、PTA会長と共に活動いただいております。学校だけではできないところを支えていただいております。

また、PTAからは、周年記念事業に合わせて予算も計上していただいております。心から感謝申し上げます。また、PTAからは、周年記念事業に合わせて予算も計上していただいております。心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございます。最後まで、ご支援とご協力の程、よろしく願います。

子供たちの心を耕す手立てとして

11月30日(水)に、よりよい学級づくりをしていくための構成的グループエンカウンター(SGE)という手法を教員研修として学びました。この手法は、学校満足度調査の結果を基にした各学級の状況や状態に対して、効果的な取組を学ぶ機会です。講師の方の指導を受けながら、それぞれの学級の状況に活用できる様々な手法を、実際に体験を通しながら学ぶ機会となりました。日頃、子供たちのために懸命に頑張っている先生方ですが、この時間では、少し気持ちを楽にして、楽しく研修をしている姿がありました。



実は、コロナ禍の中では、歓送迎会等の先生方同士が親睦を深めることができる機会を行うことができていません。私も、校長として着任をする際には、前任校での歓送迎会もなく、また、本校における歓送迎会も行うことができませんでした。先生方も工夫をして、できるだけ先生方同士の親睦を深める手立てを講じてくれていますが、やはり、以前のような気楽にお互いをよく知り合う状況にまでは、なかなかいかないというのが本当のところではないかと思っております。

今日の研修では、お互いを知り合い、楽しさの中で自然と心を開くことができるような様々な取組を教えていただきました。きっと子供たちにとっても、楽しくも心の中に温かい感覚をもって取り組めるものではないかと思っております。

各学級が子供たちにとって、更に安全で安心の居場所となるように、これからも工夫した取組を行ってまいります。

服務事故ゼロを目指して

私たち教員は、教育公務員として常に意識をしていることがあります。それは、「教育公務員として服務（様々な義務や規律事項）を厳守する。」ということです。また、教育公務員は、日常生活においても公務員としての姿勢や服務が問われます。

お休みであっても、自分が責任を取る内容でなくても、常に意識をしていかななくてはなりません。例えば、連絡・報告・相談においては、「事故に遭った」、「事故を起こしてしまった」など、自分の行動に責任が伴うことにおいては、必ず報告義務が発生します。子供を指導する際においても、子供を一人の人として見ないような暴言などは許されません。もちろん、子供を暴力によって注意したり考えさせたりするようなことなども、本当に子供を人として育てることとは言えません。

私たちは、どこまでも目の前の一人の子供を大切にしていかに成長していくために、服務における事故がないように研修や修養に努めています。今年度は、毎月、服務事故防止研修を行い、私たちが教育公務員として、本校の教職員として、保護者や地域の皆様から信頼を得られるように学んでおります。

この12月には、体罰防止に関する子供たちへの調査を行いました。私たち教職員が子供たちの思いや気持ちを知り、改めてよりよい人間関係の基に教育活動を進めていくための調査となっております。保護者の皆様と共に子供たちの成長を図っていくためにも、この調査や学校の取組へのご理解をお願いいたします。

【校長のつぶやき】 令和4年のこの1年も残すところ、あと9日となりました。皆様にとってこの1年は、どんな1年だったでしょうか。私も今年の残りの日々の中で、様々な振り返り、これからゆっくりと来年の令和5年の展望をもちたいと思っています。

さて、我が家の毎年の大晦日は年越しそばを食べて、各人がそれぞれの時間を過ごしながらも、年越しの瞬間は家族で揃い、その後、私の両親に電話連絡を入れるのが恒例となっています。

また、これは私の毎年、年の初めの取組なのですが、一年後をイメージしながら、叶えたいことや願いや思いを一覧表にして、自分の決めた場所に入れておき、12月になる頃に見返すというのが恒例となっています。

この取組は、まだ、私が30代の頃に、ある方から10年後の自分をイメージして、どんな自分になっているかを書いておくと、本当にそのイメージした自分に近づくことができるということを教えていただいたことから取り組むようになりました。最近では、10年後では、世の中の変化が激しく、私自身も追いついていけないところもあって、5年後や3年後といった期間で考えるようにしています。

自分が考えたことや思ったことの全てが全てそうなるということではありませんが、自分の中にある願いや思いを明らかにし言葉にしておくと、不思議ではありますが、自分が思う方向に向かって進んでいることが分かります。更には、心に思う力が強ければ強いほど現実に返っていくのを実感しています。

子供たちにも、この1年を振り返ったり、また、新しい1年を見通したりしながら、こういう人になりたいとか、こんなことをしたいとか、強い夢や希望をもって、毎日の生活や学校での取組を懸命に努めることができるように、保護者の皆様と協働しながら七小の学校経営に私自身も努めてまいります。

今回の校長室便りが今年最後のものとなりますが、お読みになっていただいている方に心からの感謝を申し上げます。この国立七小に来てから、多くの方と話をし、共に学校のことや子供たちのことを語り合う機会に恵まれています。皆さん、とても熱心であり、学校を大切にしてください。そして、本校の通う子供たちをまるで自分のお子さんのように可愛がり、地域の皆さんの力を結集して育てていこうとされていることに感銘を受けています。

コロナ禍で思い通りにいかない日々の生活や様々な日常の中でも、子供たちが安全に、安心して学校に通い、「あいさつ」に頑張っている姿があります。学校の推進する「やさしく」を目指して、協力いただく中で、昨年よりも今年の子供たちは、よくあいさつに挑戦しています。来年は、更に自分からあいさつができる子供たちになっていくよう共に前を向いて、進んでまいりたいと思います。



この1年、本当にありがとうございました。